小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	松宮 幹雄	法人・事業所の特徴	法人の福祉理念『あなたらしさいつまでも』を念頭に、在宅でその人らしい暮らしを継続できるよう、小規模多機能型居宅介護の特徴を活かし取り組んでいます。また、「生協10の基本ケア」に基づいた生活リハビリで、ご利用者の自立（自律）支援を行いながら、ご本人が望む暮らしの実現をめざしています。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能ホーム 勝山きらめきハウス	管理者	笠川 明美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	4人	人	人	2人	人	人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 利用者様のできることに、誰かの手助けがあればできそうなことを日々の関わりのなかで拾い上げ、自立（自律）に向けた支援を行う。 小規模多機能型居宅介護計画の見直し時期に合わせて、軒下マップを活用する。 地域包括主催の研修、認知症実践者研修等、介護に関する研修に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 心身の状態が徐々に低下していく利用者に対しての自立（自律）支援を、全利用者に対しては行うことができなかったが、状態が改善した利用者からは感謝の声を聴くことができた。 軒下マップの活用は、本人と関わりのある地域資源を見つけるために重要であるが、全利用者の把握は出来なかった。 自施設開催の研修に皆が参加、ケアマネ研修もできる限り参加できた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での会議が出来ず、評価項目について理解ができないまま、「わからない」にチェックした。 	<ul style="list-style-type: none"> まずは利用者のできることを見極め、できること・やりたいことを少しずつ実現することで、利用様の達成感、満足感を実感していただき、在宅での活動の意欲向上ができるように取り組む。 軒下マップやアセスメントを活用し個別の支援を継続していく。 研修への参加で今後も自己研鑽する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ウィズコロナを想定した行動を行う。 事業所内の感染対策の継続と6S（整理・整頓・清掃・清潔・躰・接遇）で地域の方が安心して来訪、相談に訪れる施設にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度コロナウイルス感染による事業の縮小があったことで感染拡大対策、及び感染予防対策の再検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染対策にて施設内に入れていないのでわからない。 コロナウイルス感染症の影響で「入りやすい」は難しいと思う。 事業所を訪問する機会がなく事業所内の状況がわからない。 感染対策のため自動ドアが手 	<ul style="list-style-type: none"> 感染対策を行いながら施設内の見学会を開いていく。（運営推進会議の時間を利用していく） 今後コロナウイルス感染症対策の緩和を受け状況に応じて適切な対応を行っていく。

			<p>動になっているがインターホン対応になっていると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染状況を確認しながら施設内の見学ができるとよい。 ・まだまだコロナ禍の影響が残っていると思う。 	
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策を行いながら今後も地区行事の各会の集まりや行事への参加を継続する。 ・外国人技能実習生受け入れの理解と協力を得ていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・壮年会・長寿会、夏祭り、文化祭の地区行事に参加。 ・技能実習生も紹介させていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事やイベントには業務として参加しているのか？ →業務参加と、有志によるボランティア参加もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加させていただきだけでなく準備段階からの参加も行っていきたい。 ・きらめき内のイベントの再開を検討し地域の方にも楽しんでいただく。 ・技能実習生の活動報告をしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・独居・高齢者世帯の緊急キットを更新する。 ・地域資源の把握と活用（軒下マップに記載）を行う。 ・地域見守り登録の利用と地域の方の理解と協力を得ていく。 ・近隣住民の方の困りごとや不安が無いか、日々の過ごし方を気かけ様子を見ていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急キット、地域見守り登録の利用の申請は都度行った。 ・気がかりな近隣住民の方については包括からも問い合わせがあったことがあるが積極的な関わりは行われなかった。(包括もしばらく様子を見るようにと話していた。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設には閉じこもっておらずドライブやきらめき農園など戸外活動が出来ている。 ・地域の行事やイベントに利用者と参加している。 ・近所の独居の方について職員から尋ねられたことはあっても、関わりの部分がどの程度のことになるのかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きらめきだけではなく利用者の24時間の生活スタイルを把握し以前楽しんだ行事や場所への参加の支援を行う。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染の状況の変化にかかわらず定期的に会議を開催できるよう、オンライン等 ICT が活用できる環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度は2, 4, 5回目の開催が書面での報告となってしまった。外部評価も直接意見を頂くことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事への参加はされているが地域での取組みとはどのようなものを想定しているのか？ →サロンや祭りの復活、出張サロン、福島ひまわりの取り組み他を想定している。 ・ICTの活用状況がわからない。 →健康観察(体温・血圧)の測 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は対面での実施とし、体調の確認、地域の状況に応じて、すこやかときらめきの2か所をつないだオンライン開催で行う。 ・事業所自己評価をお渡しして評価を頂いているが来年度は事前に評価項目に関しての説明も行っていく。

			<p>定と記録の自動化、アイパッドでの記録入力と活用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度もコロナ感染対策のため会議が限られた状態であった。外国の実習生の紹介等もあった。コロナ禍は継続すると思うが徐々に会議が開催されるとよいのではないか。 ・現状は書面での会議となっていますが ZOOM 等の検討はされているのか？ <p>→ZOOM使用が可能な方は自宅で、難しい方はきらめきに来て頂くハイブリット開催を検討していく。</p>	
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害(豪雪)による被害や感染症発生によるサービス提供困難等を想定した業務継続計画(BCP)を作成する。 ・地域全体での防災訓練の開催を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練は今年も中止になった。 ・施設内で、2回(6月・11月)防火訓練を開催したが、11月の訓練時に地域の方の参加協力があった(見学)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豪雪、大雨時の個別対応についての事例を運営推進会議で聞かせて頂いたことがあるが限られた職員で災害への対応は大変だと感じている。地域とも顔の見える関わりが必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時、事業所が対応できることは限られている。自助(利用者様ができること)、共助(近隣の方の協力体制)は定期的な確認を行い備えていく。 ・コロナウイルス感染症対策が緩和されることも考慮し、様々な災害時の想定と、小規模は通い、訪問、宿泊の3点から検討し業務継続計画(BCP)を作成する。 ・地域住民参加型の防災訓練を実施する。